

	頁
目次	
口絵	
序	
凡例	
細目次	
第一章 満州事変の勃発と県内の動き	3
第一節 満州事変の勃発	3
一 満州事変の勃発と行政	3
二 「満州国建国」と国際連盟脱退	11
三 第三師団の動員と支援体制	24
第二節 国民思想の再編成と統制	39
一 国民精神作興運動の展開	39
二 思想・社会の監視と取締りの強化	59
第三節 国家的儀礼の挙行と国民統合の強化	72
一 皇太子誕生	72
二 熱田神宮本殿遷座祭	88
第二章 「非常時」下の政党政治と県・市町村行政	107
第一節 「非常時」下の政党と選挙	107
一 既成政党の動揺	107
二 ファシズム勢力の台頭	130
三 肃正選挙	146
第二節 地方行政の再編と恐慌への対応	159
一 「非常時」の県政と時局匡救事業	159
二 農山漁村経済更生運動の展開	169
三 社会政策	178
四 県庁舎の新築	194
第三章 日中戦争の全面化	205
第一節 日中戦争の全面化と愛知県	205
一 盧溝橋事件への対応	205
二 第三師団の戦闘	213
第二節 「戦捷」行事と銃後体制の形成	219
一 「戦捷」行事	219
二 銃後体制の形成	228
第三節 日中戦争期の政党と翼賛政治体制の形成	253
一 政党政治の崩壊	253
二 翼賛政治体制の形成	271
第四節 戦時行政機構の形成と県政	297
一 地方税制改革と県政	297

二 三部制廃止問題	307
三 自治制発布五十周年	315
第四章 国家総動員体制下の社会的統合と統制	335
第一節 国民精神総動員運動の展開と思想統制	335
一 国民精神総動員運動の展開	335
二 思想統制運動の推進	350
三 紀元二千六百年祭	358
第二節 国家総動員体制の構築と日常生活の統制	369
一 労働力の統制	369
二 日常生活の統制	385
三 統制機構としての常会	395
第三節 国家総動員体制下の社会事業・厚生行政	406
一 「健康増進」という国是への対応	406
二 「生活保障」政策の推進	425
第四節 「無癩県運動」の展開と愛知県	434
一 「無癩県運動」の展開と「十坪住宅」建設募金運動	434
二 小笠原登による隔離政策批判	454
第五節 満州移民送出政策の展開	469
一 満州移民送出政策の展開	469
二 「満州東三河村」建設計画の推移	479
第五章 日中戦争下における都市の発展と都市構想	505
第一節 「百万都市」名古屋と県内各都市の発展	505
一 「百万都市」名古屋	505
二 県内各都市の発展と小都市計画	522
第二節 名古屋汎太平洋平和博覧会と「中京」の確立	539
一 名古屋汎太平洋平和博覧会の開催	539
二 「中京」の確立と名古屋	547
第三節 都市の戦時体制化	557
一 防空都市の形成	557
二 軍需景気と都市	565
第六章 アジア太平洋戦争と翼賛政治体制	581
第一節 アジア太平洋戦争の戦局と愛知県	581
一 アジア太平洋戦争の勃発	581
二 戦局の推移と愛知県の動向	585
第二節 翼賛選挙	601
第三節 戦時行政体制の展開と県政	622
一 戦局の悪化と県政	622
二 地方事務所の設置と広域行政	632
第四節 戦時下の部落会・町内会と町村行政	646

一 部落会・町内会の整備	646
二 戦時下の常会	656
三 町村行政の統合化	671
第五節 戦時統制と動員の徹底	677
一 経済統制	677
二 人的動員と生産力増強	683
三 物的動員―貯蓄・供出	697
四 女性の動員	713
五 「謀略」への警戒と取締り	728
第六節 戦時動員体制と朝鮮人・中国人	733
第七章 空襲・本土決戦体制と戦争の終結	757
第一節 防空対策の強化と疎開	757
一 防空対策の推移	757
二 防空疎開の展開	770
第二節 東南海地震と三河地震	786
一 地震被害状況	786
二 地震復興	802
第三節 本土空襲の激化と行政の対応	810
一 本土空襲の本格化	810
二 名古屋に対する空襲の激化	821
三 全県規模への空襲の拡大	837
四 愛知県下の「俘虜」「抑留」	849
第四節 本土決戦体制	861
一 本土決戦体制の構築	861
二 本土決戦体制下の愛知県	869
三 国民義勇隊の結成	886
第五節 敗戦	895
解 説	923
頻出語句・用語一覧	
あとがき	
資料提供者及び協力者	
愛知県史編さん関係者名簿	